

WS-07(要旨) 多職種協働／連携教育の関心事をつなげるテーマ型学習コミュニティの構築
Building thematic learning communities of interprofessional collaboration/education

司会：春田 淳志（慶應義塾大学）

社会が急速に変化する中で、複雑な課題を抱える患者・家族・地域への対応やその課題を協働的に取り組む能力が医療従事者には求められる。この能力を獲得するため、多職種協働への関わりや多職種連携教育は欠くことができない。単科大学や過密化したカリキュラムの中で養成校・大学ではどのように多職種連携教育を実施したらよいか、その教育がいかに現場の多職種協働につながるのか、多職種連携能力の評価はどうしたらよいか、現場で意見を交わし合える多職種協働に必要なものは何か、質改善から患者のケアにおける多職種協働において現場のスタッフが直面する課題にどう対応したらよいかなど、学生・教員・現場のスタッフは悩むことが多く、このような関心や課題は多種多様である。一方で、どこに相談したらよいかわからない声も聴いている。

本ワークショップでは、このような多職種連携に関わる関心事や課題を学習テーマとしてとらえ、テーマ型学習コミュニティを緩く構築することを目的とする。日本医学教育学会・多職種連携教育部会では、学術大会前から任意につながってきた学生や地域での団体と協働し、緩いつながりを作ってきた。その流れをもとに本ワークショップでは、多職種連携教育に関する関心事や課題を話す場を作り、気軽に対話ができる場をオンライン上で構築するワークショップを企画する。多職種連携教育における学習者のニーズ、学習者評価、教育方法、学習環境の整備、カリキュラム開発、プログラム評価などの教育実践から、現場での連携能力の醸成、医療安全・在宅医療などテーマに応じた多職種連携教育、病院と地域の垂直統合、地域における水平統合などから、これまでつながってきた参加者のニーズに応じてファシリテーター他から、いくつかのテーマに関してオンライン上で緩くコミュニティを構築するための話題提供をし、テーマ型コミュニティ構築の契機をつくる。学術集会でのワークショップはあくまで通過点に過ぎない。医学教育学会・多職種連携教育部会では、本学術集会のワークショップを契機に、日本の多職種連携に関するテーマ型学習コミュニティの拡大・発展に取り組んでいきたい。

ファシリテーター：安井 浩樹（美幌町立国民健康保険病院）
Hiroyuki Yasui (Bihoro National Insurance Community Hospital)
伊野 美幸（聖マリアンナ医科大学）
Miyuki Ino (St. Marianna University School of Medicine)
内山 靖（名古屋大学）
Yasushi Uchiyama (Nagoya University)
加藤 博孝（岩手県立磐井病院）
Hirotaka Kato (Iwate Prefectural Iwai Hospital)
前野 貴美（筑波大学）
Takami Maeno (University of Tsukuba)
後藤 亮平（筑波大学）
Ryohei Goto (University of Tsukuba)
内藤 知佐子（京都大学）
Chisako Naito (Kyoto University)
後藤 道子（三重大学）
Michiko Goto (Mie University)
野呂瀬 崇彦（帝京大学）
Takahiko Norose (Teikyo University)
吉見 憲二（成蹊大学）
Kenji Yoshimi (Seikei University)
石川 さと子（慶應義塾大学）
Satoko Ishikawa (Keio University)
大槻 眞嗣（藤田医科大学）
Masatsugu Otsuki (Fujita Health University)